

令和5年度 第4回 温海地域振興懇談会 会議概要

○期 日	令和6年3月15日（金） 午後2時～午後3時50分
○会 場	鶴岡市温海庁舎 6階大会議室
○出席者	五十嵐收一会長、飯塚厚司委員、三浦英喜委員、本間健一委員、佐々木真人委員、本間静華委員、片岡正孝委員、野尻晶委員、五十嵐明美委員、五十嵐晴美委員（10名）
欠席者	佐藤静夫委員、佐藤昌幸委員、佐藤容介委員、佐藤俊介委員（4名）
市側出席者	<p>【温海庁舎】</p> <p>伊藤総務企画課長、剣持市民福祉課長、本間産業建設課長、総務企画課 奥田主査、今野主事、本間地域まちづくり未来事業推進員</p> <p>【建設部】</p> <p>都市計画課 三浦主幹（兼）鼠ヶ関IC周辺施設整備推進室長</p> <p>【企画部】</p> <p>地域振興課 北山主任</p>
○公開・非公開の別	公開
○傍聴者の人数	0名
○次 第	<p>1. 開 会</p> <p>2. あいさつ 五十嵐收一会長</p> <p>3. 報 告</p> <p>（1）道の駅あつみ移転整備事業について資料1</p> <p>（2）令和5年度温海地域主要事業の進捗状況について資料2</p> <p>4. 協 議</p> <p>（1）温海地域振興計画（案）について 資料3 資料4</p> <p>（2）その他</p> <p>5. その他</p> <p>6. 閉 会</p>
○委員発言の概要	
3. 報 告	<p>3. 報 告</p> <p>（1）道の駅あつみ移転整備事業について</p> <p>説明：建設部都市計画課</p> <p>三浦主幹（兼）鼠ヶ関IC周辺施設整備推進室長</p>

(2) 令和5年度温海地域主要事業の進捗状況について

説明：庁舎各課長

G委員

- ・保育園留学について、子育て家族の受け入れ目標を設定していたか。
- ・SEL教育について、小・中学校で研修を行ったということだったが、学校側の反応はどうだったか。教職員の働き方改革により、中学校の部活動も地域移行している中、SELの教育に力を入れる時間はあるのか。
- ・情報発信について、市のHPに年1～2回行っているようだが、温海地域外の方への情報発信をしているか。また、子育て世代へ伝わる情報発信が出来るか。

伊藤総務企画課長

- ・保育園留学の受け入れ目標は、10家族としていたが、実績2組であった。募集開始が遅れたため、夏の時期の受け入れが出来なかったことは悔やまれる。令和6年度は、早めにスタートできるように準備する。
- ・SEL教育に対する小・中学校の反応について、捉え方は様々あると思う。働き方改革もあることから、先生方の負担とならないように配慮しながら、SEL教育を推進していく。すぐに効果が現れるものではないが、継続して取り組んでいきたい。
- ・庁内で保育園は市民福祉課、学校は総務企画課（教育委員会）が担当となることから、プロジェクトチームを立ち上げて取り組んでいるが、情報発信についてはまだまだ不足と捉えている。この取組は、先進事例であることから、次年度の課題として取り組んでいく。
- ・地域おこし協力隊の鈴木けいさんから、保育園中心の取組だが、インスタグラムで紹介していただいている。

H委員

- ・東京の大学生たちがプロジェクトで関川を訪れ、地元の自然や山菜等に興味を持ってきている。彼らとの交流を通じて、私たちは地元の魅力を再発見し、彼らも地域の良さを感じてきている。彼らの訪問は地域の活性化につながり、交流人口が増える可能性がある。

伊藤総務企画課長

- ・令和6年度の計画には、東京などの学生が温海地域に関わりやすくなる仕組みづくりが含まれている。

A委員

- ・NPO自然体験温海コーディネットが実施する教育旅行では、中学生がグループワークを中心に各事業所に4～5人ずつ分散させて体験学習を行っている。この取組に対し、市は支援しているのか。街中に住む子どもたちにとって、豊かな自然環境の中での体験は、とても興味深いようだ。地域の魅力を伝えるためにも、この取組に対し温海庁舎としても一層の支援、協力をお願いしたい。

本間産業建設課長

・No.30 のあつみ体験旅行推進事業において、補助金により令和6年度も継続し支援していく。

A委員

・NPO 法人自然体験温海コーディネットの取組において、市側は金銭的支援だけでなく、地域の事業所を訪れて協力を要請したりと、町全体で支援する姿勢が大切である。

本間産業建設課長

・市としては、補助金による支援の他、担当職員もコーディネーターの方と情報共有しながら一緒に取り組んでいる。いただいたご意見にも配慮し、引き続き取り組んでいく。

4. 協 議

(1) 温海地域振興計画(案)について

説明：伊藤総務企画課長

G委員

・地域まちづくり未来事業の教育環境充実事業が、基本方針2の(3)関係人口拡大の仕組みづくりに位置づけられているが、基本方針4の(6)地域で育む子育て・教育環境の充実に位置づけられるのではないかと。

生涯学習振興会に配置されている地域おこし協力隊は、温海に住所を置き活動しており、関係人口ではないので、事業の位置づけとしては、基本方針4に入れるべきではないかと。

伊藤総務企画課長

・外部人材を活用する観点で、地域おこし協力隊制度を活用するものであり、基本方針2に位置づけている。観光分野でも地域おこし協力隊を受け入れた経過があり、様々な分野で外部人材を活用していきたいという思いがある。教育環境充実事業において、地域おこし協力隊は、温海地域に住んで活動しているので、事業の分類については令和7年度以降検討する。

五十嵐収一会長

・総務企画課長の説明によれば、地域おこし協力隊は現在1名であり、将来的には3~4名に増える可能性もある。総務省の制度を活用して地域おこし協力隊を入れていくことを地域振興計画の基本方針2に位置づけているということ。地域おこし協力隊を3~4名と増やしてほしいということがあれば、この地域振興懇談会からの要望となる。

C委員

・少子化が進む温海地域において子どもを産む前の「結婚」促進は大きな課題。令和6年度の地域振興懇談会で「やまがた縁結びたい(結婚を望む方を応援するボランティア仲人)」の方から、現在の結婚事情などを説明いただいてはどうか。(要望)

伊藤総務企画課長

・検討する。

G委員

・計画の16ページに生徒の学力向上を図ると記載があるが、学力向上の目標数値を設定しているか。そして学力向上の評価はどのように行われるのか。また、受講生の高校受験の可否の把握はしているのか。あつみ地域未来塾に関わった先生方が受講生の可否を心配していたと聞いている。

伊藤総務企画課長

・学力向上の目標設定はなかなか難しいが、中学3年生の総数に対する未来塾の受講生の割合を目安に取り組んでいく。
・受講生の高校受験の可否の把握については、予定していなかったが、今後検討する。

五十嵐収一会長

・資料2「温海地域主要事業の進捗状況」について、事業目的の欄に地域振興計画の主な施策を記載することで、計画の整合性が明確になると感じた。次年度の資料作成時には、この点を考慮していただきたい。
・資料3、地域振興計画の12ページの具体的な施策に「温海地域産直活動組織の育成と取組への支援、15ページの主な施策（5）地域でささえあう環境づくりの活動を支援するとあるが、具体的な支援内容などイメージがつかない。計画の文章の修正を求めるものではない。自治会長会、福祉団体、農業団体へ具体的な支援内容や制度に基づいた情報提供が行われることで、市の制度等を活用した活動が促進されると思う。来年度、支援内容について提供をお願いしたい。

C委員

・集落ビジョン策定の支援に関して、宮名自治会でも支援を受けて、ビジョン策定に取り組んできた。様々な案は出るが、現実的に誰が主体となって取り組むのか、後継者の育成や体制の整備が課題となっている。具体的に取組を進めるには、地域におけるリーダーシップの育成や協働体制の構築が重要である。
・乗合タクシーの車両について、高齢者が容易に乗降できるようにステップ付きにしていきたい。

五十嵐収一会長

・乗合タクシーの車両の件については、温海地域公共交通運営協議会を通して事業者へ要望があったことを伝える。
・ここで協議を終了する。委員の意見を参考に計画の最終的な取りまとめを依頼する。また、来年度以降は、委員の皆さんから具体的な取組に対し意見をいただきながら、5年間の計画を進めていくことになると思うので、よろしくお願ひする。

(2) その他

D委員

・道の駅移転整備事業は、地域の活性化の大きなチャンス。皆さんから様々

な意見を出していただき、より良いものが出来るとよい。

・次回以降の地域振興懇談会の持ち方について、話し合いの時間を最低1時間は確保し、十分に意見交換が出来るように配慮いただきたい。

五十嵐收一会長

・今年度は、市総合計画後期基本計画の策定の年で、議論が難しい部分もあったかと思う。次年度以降は、具体的な部分について委員の皆さんから意見を聞く会議になると思う。会議は2回程度の開催となるが、時間の設定は、事務局へ検討を依頼する。

・今回、道の駅移転整備事業について説明いただいたことは大変良かった。大きい事業について情報提供いただき、それを踏まえ温海地域として、どこを誰が頑張るか皆で考えていくことが、温海に住む私たちの責任とを感じる。

A委員

・今年の鼠ヶ関小学校の入学生が3人、今後、廃校になるのではと懸念される。若い世代の不足が地域の課題であり、子どもの増加が地域の活性化に不可欠である。住民が楽しく集まる場を創出することや、地域の交流を促進することが重要であり、地域全体で取り組んでいくという気運の醸成が必要ではないか。地域の本来の姿や生き方について考え、そういった価値観を大切にしていくことが必要ではないか。

五十嵐收一会長

・根本的な人間としての考え方を目指しながら、地域づくりを進めていくことが課題。2地区の自治会長会議で、各自治会で行われてきた活動に新しいアプローチを加える議論が始まっている。具体的な取組はまだ決まっていなが、多角的な参加を促し、若い人も参加しやすい事業を行っていくべきと議論している。これからの時代は、前向きに様々な事業に取り組んでいく時代になると思う。自治会の活動について、新しい視点で展開し、周辺の自治会と一緒に取り組んだり、子どもたちが生きていくうえで大切な体験を広めていこうと話している。

D委員

・温海地域の老人クラブの会員は300数名、65歳以上の老人3,000人。老人クラブで市から補助金をもらい事業をしているが、温海地域全体の老人へ参加を呼び掛ける手立てをしている。

・明るいまちづくり大会と老人福祉大会を一緒にすることが決まった。

5. その他

【情報提供】

D委員

(スポーツ施設の整備充実について) ※資料提供あり

・温海地域でも体育館の要望をしていたが、市スポーツ推進計画に記載がない。第2次市総合計画には、学校体育施設の有効活用を図ると記載があるが、温海地域に体育館がないのは残念に思う。

G委員

(地域おこし協力隊の活動報告会のお知らせ)

- ・3月18日(月)14時～、令和5年度の活動報告会を開催する。

伊藤総務企画課長

(Digi田(デジでん)甲子園2023の結果について)

- ・朝日、温海地域で取り組んだ高校生等の通学費支援のデジタルワンストップ化の取組が審査委員会審査の結果、トップ10入りし8位タイであった。